

エコあっぷ!

おもな記事 センターの落ち葉問題をめぐって(3p) / みんなでエコアップ! 「ビオトープ」(6p) / バードテーブルに挑戦(7p)

エコあっぷ! レポート1

パネルディスカッション
「街路樹問題を考える」

落ち葉って ごみでしょうか……?

たきかわ環境フォーラム(高橋啓治代表)と滝川市教育委員会は2003年11月9日午後、滝川市美術自然史館でパネルディスカッション「街路樹問題を考える」を開きました。4人のパネリストをはじめ、参加者からは多くの意見・提言が。当フォーラムはこれからも「街路樹問題」を考え続けます。

吉澤隆司、北谷孝範/写真、平田剛士/文

「森の色は癒しの色です」

パネリスト 吉澤隆司さん フォーラム運営委員、カメラのパピヨン店主

市内の街路樹の様子を撮影してきました。これはまだ剪定されていない状態です(写真A)。で、これが剪定後です(B)。ぱっさりやってますね。森のかがく活動センターでは先日、市内の小学校で校庭の木の落ち葉を受け入れたんですが、相当の量です。いまは堆肥場を作って、その中に入れてあります。

さて今度は近郊の自然の風景をご紹介します。森に入って、こうやって写真を撮りながら歩いていると、精

神的にホッとします。森の力でもいうんでしょうか、たとえばリスを探しながらゆっくり歩いていると、爽快な気分になるんです。ハルゼミの抜け殻なんか、こう、木の幹に並んでいるのを見ついたりすると、ちょうど新緑の季節ですが、本当に心が洗われる気がしますね。

動物や生き物たちにとっては、森は生活の場です。木には力があるし、森の効用というのはとても大きい。

わたしは、森の中で出会う輝きの色を「癒しの色」だと思っています。木というのは、わたしたちにとって必要なものなのです。



写真A (撮影・吉澤隆司)



写真B (撮影・吉澤隆司)

「落ち葉はごみじゃない。循環の世界に戻るべきなのだ」

パネリスト 高橋啓治さん フォーラム代表

山の森を見て下さい。堆肥をやらなくても維持されているのは、落ち葉が栄養源になっているからです。落ち葉

はごみじゃないんです。

いま農業問題がクローズアップされていますが、経済の問題だけではありませんよ。土が、作物を作れない状態になっている。良い状態に戻すのに、土に落ち葉を還元したい。街路樹の葉っぱは、相当な量になるはずですが、これをごみと見なすというのは、農業者にとって残念でならないんです。

人間はこれまで、自分が

便利よくなることばかり考えてきましたが、原点に戻ったらどうかと思うのです。落ち葉を投げてしまわないで、地上にかえしてあげる、そんな循環の世界に戻るべきなのです。そうすれば、落ち葉を見る目も変わってくると思う。

たとえば街路樹の落ち葉をボランティアの力で一定のところに集めて、堆肥にしていくなとか、そういう形にしていくなが大事だと思います。

腐葉土の効用

- 土壌の構成要素(粘土・砂・有機質)
- 肥料養分の補給
- 土中微生物の繁殖を助ける
- 土壌の団粒構造を維持する
- 土壌間隔をつくる(酸素維持、根張り)
- 土中の温度を高める(黒土)
- 土中の水分保持

2 ページに続く

落ち葉ってごみでしょうか……?

「多角的に見れば 考え方は変わるのでは」

パネリスト川嶋幸治さん 滝川市市民生活部参事

今、こんなふうに着葉の処理のことが話題になり始めたのは偶然ではないと思います。この春から滝川のごみ処理は、従来の定額制から従量制になりました。家の前で集めた落ち葉を有料の指定ごみ袋に入れて出さなくてはならなくなったわけで、街路樹の落ち葉なのにどうして自分が経費を負担しなければならないのか、というふうになってきたのです。

街路樹は管理者がハッキリしていますから、本当なら管理者が落ち葉もきちんと管理するべきだとわたしも思います。ですが、全市内でその都度、落ち葉を片づけるのは大変で、正直難しいです。

4月から稼働した「リサイクリン」は、生ごみをメタン発酵させてエネルギー利用を図る日本で初めてのバイオガス施設です。でも、生の葉っぱは利用できるのですが、落ち葉は、プラントに入れても異物として吐き出されてしまいます。それで、いまは集めた落ち葉はエコバレーに送って燃やしています。ただ、ごみ発電をしているので、単に燃やしているわけではありません。

先日、まちづくり懇談会を13の連合町内会で開催しましたが、「街路樹を全部切ってくれ」という意見もありま



パネリストの吉澤さん、武田さん、1人おいて川嶋さん、高橋さん(右から。撮影/北谷孝範)

す。吉澤さんの写真のような切り方、異様な光景だと思いますけど、景観の面、精神的な面、二酸化炭素吸収の効果とか、多角的に見れば街路樹に対する考え方も変えられるのかな、と思います。

《データ1》

滝川市の街路樹管理予算
1500万円(2003年度)
うち1000万円が剪定向け

「街路樹の楽しみ方をみつけよう」

パネリスト 武田忠義さん フォーラム運営委員、北海道自然環境部

私はお寺のすぐ横に住んでいて、街路樹もたくさんあって、時々落ち葉で雨水マスが詰まったりもしています。掃除するのは確かに大変ですけど、葉っぱをカサカサ踏み締めながら歩くのもなかなか気持ちいいものです。

街路樹の価値を考えてみますと、まず緑の多いところに住みたい、という人は多いのではないのでしょうか。実際、地価を見ると街路樹のある地区が高いんです。

街路樹の下には木陰が出来ます。夏

の快適さを演出してくれる。雨が降れば、アスファルトに直接たたきつけるのに比べて、街路樹があるとずっと水の地面への吸収率が高いんです。もちろん、二酸化炭素を吸収してくれるという効果もありますね。

滝川では街路樹としていろんな樹種が植えられています。マロニエ(トチ)とかクリとか、花が咲いて実の生る並木を作ってはどうかでしょう。鳥が集まり、そんな街路樹を森とつなげたら、帯広なんかはそうしていますが、

街中にリスを呼べます。

落ち葉問題はどの自治体も悩んでいるんですが、たとえば岩見沢では地域が徹底的に話し合いをして、電線にかかったり標識が見えないときだけ枝を払う、それ以外は切らないというふうになっているようです。

山梨の甲府市では、神社やお寺の緑を街路樹でつないで、巣箱をかけたり、コウモリを増やそうという活動が盛んです。街路樹を利用していろんな楽しみ方ができると思います。

滝川市森のかがく活動センター

愛称&シンボルマーク募集中

採用作品の作者に賞状と副賞(特製「えこあっぷ!セット」)をお贈りします。

応募規定 自作の未発表作品に限ります。作品に制作の意図(簡単な説明文)と住所、氏名、年齢、電話番号を明記のうえ、郵送かファクスでお寄せ下さい。ニックネームには、よみがなも添えて下さい。

応募先 郵便番号073-8686 滝川市教育委員会文化振興課「森のかがく活動センター愛称募集係」あて
ファクス 0125-24-1024

締め切り 平成16年(2004年)3月31日(消印有効)

ニックネームを考えて えこあっぷ!セット をゲットしよう

採用発表 森のかがく活動センター情報誌「えこあっぷ!」(2004年5月発行号)、「広報たきかわ」(同)誌上で発表します。また採用者に直接お知らせします。

ご注意 採用作品の一切の権利は滝川市「森のかがく活動センター」に帰属することになります。また使用の際に補作・補修する場合があります。あらかじめご了承下さい。

でもえこあっぷ!セットって何なんでしょう…?
秘密は次号明かされる!

豆知識
たきかわ環境フォーラムは、森のかがく活動センターの運営を担うために二〇〇三年八月に設立されたボランティア団体です。森のかがく活動センターは、もとの営林署の建物を滝川市が譲り受けて管理しています。正式オープン日は二〇〇四年五月一日。

落ち葉ってごみでしょうか……?

プラタナスが選ばれる
わけは……?

フロア 緑町に住んでいますが、高校通りの街路樹がこの前、剪定で丸坊主にされちゃったんですね。せっかく紅葉してきれいな時期なのに、あっさり切っちゃったのは信じられない。通学路で、卒業後には生徒たちの思い出にもなると思うです。植えるのだってタダじゃないでしょう。ボランティアで落ち葉を集める仕事をしてもらうとか、方法があるはずです。それに、なぜ落ち葉の多いプラタナスばかり植え



撮影・北谷孝範

《データ2》

滝川市内の街路樹 (市教育委員会調べ)

イチョウ	2 1 1 0本
プラタナス	1 6 0 0本
エゾヤマザクラ	1 5 0 0本
ナナカマド	1 1 0 0本
そのほか (シラカバ、ニセアカシアなど)	
計 30種	9 1 6 8本

川嶋さん 街路樹を切ってくれと町内会に向けて、「家の前の木はあなたの責任で」というのは、行政はなかなか言いにくいものなんです。ただ、滝川市はこれまで何でも市がやる、というスタイルでしたけど、市長も替わって、今後は「協働」の町づくりに変わっていくと思います。個人的な考えですが、たとえば葉っぱの中には太陽エネルギーが詰まっている。これをごみで

るんでしょう? 植えるなら最後まで面倒を見ることを考えて、子供たちの夢を壊さないで欲しいです。

フロア 造園業で、街路樹剪定の仕事もやっています。街路樹の選び方はハッキリしていて、安くて丈夫で、クルマが衝突してもしなやかで、剪定に強い、そういう基準です。だからプラタナスが選ばれるんです。葉の裏に毛が生えていて、排気ガスの汚れを吸収してくれますし。実は今年も300本のプラタナスを剪定しました。いわゆる強剪定です。もし毎年切らせてくれたら、もっとキレイに切れます。でも予算の都合で3年に1度しか剪定できないから、1度に3年分切らざるを得ない。除雪の邪魔になってもダメです。もちろんわれわれも技術者を育成していくことが重要だと考えていま

すが、せめて自分の家の前の歩道の街路樹の落ち葉は「自分の木」とみて面倒みてもらえたら、と思います。

フロア いまのような専門家のお話、知らない人が多いですよ。もっとみんなでも共有していかないと。フロア 枯れ葉がいつからごみとみなされるようになったか、核家族化と重なっているように思います。私たちの世代の子育てで、そんなふうを考える人が増えたのかも知れませんね。



市民と行政の「協働」による町づくりを

はなく、「バイオマス (生物をエネルギー源として利用すること)」とみなしたらどうでしょう。そんなことを滝川から発信していく、そういう町づくりは可能なのでは

です。緑を見て癒されると言っても、そこに生活している人と認識がかけ離れすぎているのではないかと、堆肥にすると、果たして現実的なのか。たくさん量を具体的にどんなふう処理するのか、とか、議論するにはまだまだ勉強不足ではないかと感じました。

ないかと思えます。高橋さん これからは「行政対市民」という構図ではいけないと思うんですね。こうしてくれ、ああしてくれ、という対立ではなくて、「たきかわ環境フォーラム」なんかの今回のような機会をもっと市民の中に増やしていくことが大事だと思います。フロア ただ、街路樹問題と言っても、もっと問題点を整理しないとダメ

フロア 街路樹管理は維持課で、景観は別の部署、きょうのこの催しは教育委員会と、縦割りです。川嶋さん ご指摘の通り、市役所の内部の情報の共有は必要ですし、わたしも一本化すべきだと思います。環境都市宣言をしていますし、「協働」でやろうというなら、そういう受け皿も必要ですね。

おすすめブック 「そだててあそぼう第8集 土の絵本」 (全5冊、日本土壌肥料学会編/農文協)

なにを隠そう、筆者はこの「そだててあそぼう」シリーズの大ファンなのだ。こども向けの絵本とあなごるなかれ。ガーデニングに手を染めてから、アレコレ参考書を買って読んでみただけで、これ以上の入門書はちょっと見当たらない。「土」をテーマにした第8集は5巻セット。いっぺんに揃えようとちょっとお高いですけど、損はさせません。光る泥だんごから、「なまごみ堆肥」の作り方まで、思わず試してみたくって、庭の雪解けが待ち遠しくなるはず。もちろんお庭のない人も楽しめます。(平田剛士)

小学校低学年以上、揃え定価 9450 円



豆知識 「強剪定では、景観上の問題点も指摘されているが、地元の住民からは強剪定を実施していく。」(『広報たきかわ』二〇〇四年一月号より)

えこあっぷ! なトピック

空知町一区

センターからの落ち葉問題

町内会さんと初会合

そのほかをめぐって

豆知識

たきかわ環境フォーラムの活動のキーワードは「エコアップ」。エコロジカル・アップ(増自然)の意味です。「どんな生き物がいたか、あるいはいるのがふさわしいのかを、きちんと調べ、エコアップの目標を立てていかなければなりません」(武田忠義『えこあっぷ!宣言』から)

たきかわ環境フォーラムは2003年10月30日夕、森のかがく活動センター会議室で、地元・空知町一区町内会みなさんと初めての会合を持ちました。センターに多数植えてある樹木からの落ち葉がまわりの住民のみなさんたちの手をわずらわしているのですが、このことについて率直な意見交換がありました。

参加者 空知町一区町内会のみなさん、たきかわ環境フォーラム運営委員、滝川市教育委員会文化振興課、そのほかのみなさん

秋は落ち葉、春は綿毛がひどいんです(町内会員)

高橋啓治フォーラム代表 森のかがく活動センターでは、市民サイドに環境問題に関する情報を集めて、またそれを市民に還元したいと思っています。環境問題といっても難しいことではなく、落ち葉、下水、ごみのこと、そんな身近なテーマもどんどん取り上げていきたいのです。

坪川総一郎・空知町町内会会長フォーラムのみなさんのボランティア精神に敬意を表します。私たちは住みよくて安心できる環境が何より。きょうは落ち葉のことを議論できると聞きましたが、周辺住民のなかには、町中にこれだけ木があって落ち葉が出るというのはいかながなものか、という意見

もある。春にはシラカバの綿毛もすぐく飛ぶ。道路一面に積もるのです。

町内会員 飛んできた落ち葉で車庫の中がいっぱいになるくらい。はっきり言わせてもらおうと、非常に迷惑なんです。それに、木の上にカラスが巣を掛けて、第3小学校の通学中の子どもが襲われてます。

越後弘フォーラム事務局長 トウヒの並木のところですね。この春には、市が消防のハシゴ車を出動させて、放水で巣を落としました。ただ、カラスはとくに愛情深い鳥でしてね、子育て中は不用意に近づくと、攻撃的になることがありますね。

町内会員 近くで小学生の子どもが



いるのはうちだけなので、いちばん被害を受けているんです。学校に対応を求めても、「2人だけのことだから」と言われたり。

高橋代表 フォーラム委員はみんなボランティアなので、苦情を受ける立場にないんですが、対応だけはきちっとしていきたく思ってるんです。

ハシブトガラスは危険な場合がありますね(武田委員)

武田忠義フォーラム委員 カラスにはハシブトガラスとハシボソガラスがいて、ハシボソはおとなしいのですが、ハシブトは危険な場合があります。巣を作ってる最中、雛を育てている時に邪魔をしたらダメですね。それから、巣の近くにゴミを出すことは避けなければ、市街地のカラスを全部駆除できるわけでもありませんし、子育て期間の間だけ、通学の子

どもたちに傘を持たせて、近くを通るときにさしてもらうようにして成功した事例もあるんです。まず種類



おでこ
太い

ハシボソガラス(上)とハシブトガラス(下)の違い。『フィールドガイド日本の野鳥』(日本野鳥の会)を参考に作図した。イラスト平田剛士

を見極めて、いろいろ知恵を出して対応していく必要がありますね。

越後事務局長 現場を見ますと、冬

の間、ゴミ箱をセンターの敷地側に出していたとか?

町内会員 子どもが襲われたんで市が動いた、と聞いています。

越後事務局長 カラスも本来は山の中の鳥なんですがね……。ここではカラスが巣を掛けるのはトウヒの木なわけですが、剪定するほうがいいんでしょうか。

南川和廣・文化振興課課長 このセンターに植えてある木は、旧林務署から市が財産として引き継いだもので……。高橋代表 無闇に切ることはできないのです。

坪川会長 となれば共存を探っていくかないと。

町内会員 でも落ち葉だけじゃなくて、高い木のお陰でテレビの映りも悪

いんですよね。

町内会員 このパネルディスカッション(1ページ参照)のチラシ、「落ち葉ってごみでしょうか」ってな

ります。それが山になってるわけ

で。

町内会員 (木を)このまま伸ばしっぱなしというのは、どうかな。せめていい木なら、材にして売れるんだらうけど。

高橋代表 木を守る、自然を守るという認識は共通だと思うのですが。

町内会員 いや、一番の解決策は切ることですね。

越後事務局長 街路樹のない町はないわけで、落ち葉とかカラスとか、どの町でも共通の話題ではあります。でも市の憲章でも「緑豊かなまち」をつ

くると謳っていますし、伐採はなるべく避けたい。そのうえで具体的な解決策を探りたいのですが。

河野敏昭・文化振興課課長補佐

センターからの落ち葉に関して、市としては、いま年に8回分、おおむね週

に一回ですが、シルバー人材センターと契約して掃除をお願いしています。

町内会員 でもやっぱりシラカバだけでも処分して欲しいなあ。

共存を探っていくかないと(坪川会長)

地域の理解を得ながら進めてほしい (清水市議)

山下町内会副会長 きょうは町内の老人会のみなさんにも来てもらいました。

老人会員 じつは、この施設で例会とか、舞踊やカラオケをできないかと。いま利用している花月地区の施設が建て直し工事に入るので、その間、使えなくなってしまうのです。

高橋代表 なるべく多くの人に集まってもらうというのが大きなテーマではあります。市内にも遊んでる施設、多いですからね。ただ、あくまで森の科学活動センターですから、何でもかんでも受け入れられるかどうか……

町内会員 そんなこと言ってたら、利用者は増えないよ。

南川課長 施設を管理する市として

は、地域のコミュニティには開放する、というふうに議会で答弁しています。たとえば「緑の少年団」というグループがドングリやクルミの苗木を育ててますが、そういうところはどんどん利用してもらおう。老人クラブにも協力いただいて、注連縄作りを教えてください。交流の場を提供することも使命だと思っています。

清水雅人・滝川市議会議員 市の施設を減らそうという議論をしている時にこのセンターが増えるわけで、地域の理解を得ながら進めていかないと。環境フォーラムの熱意と地域の要望が噛み合っていないかな、とも思いますが、両立していければ……。

坪川会長 コミュニケーションの場として活用していけたらいい。ダンス

もあれば歌も歌えて、たまにはお酒も飲めるでしょう。

高橋代表 こういう会合を今後も開いて、行政も交えて、意見交換していこうと思います。みんなの意見を吸い込んで、決めたことはやっぴいこう、そういうふうには思っています。最後の挨拶を、じゃあ副代表から……

平田剛士フォーラム副代表 例会とか、カラオケの帰りにでも、ちょっと2階の展示を覗いてもらって、環境のことを少しでも学んでもらうとか、そういうふうになればいいと思います。ぼくらはたまには歌わせてやって下さい。きょうは本当にありがとうございました。

(写真と文・平田剛士)

腐葉土づくりにチャレンジ中です



たきかわ環境フォーラム

中空知地方の「エコアップ」(6ページ参照)を目指す「たきかわ環境フォーラム」(高橋啓治代表)は、拠点とする「滝川市森のかがく活動センター」(滝川市空知町)の樹木の落ち葉を、ごみではなく資源として循環させたいと考えて、2003年10月、試みに、落ち葉を集めて熟成させるための「落ち葉枡(ます)」をつくりました(右、平田剛士写す)。

センターには、約3200平方メートルの土地に大小合わせて37種、134本の樹木が植えられています(下の表)。豊富な緑はセンターの大きな自慢ですが、これらの木々から落ちる枯れ葉の量は相当のもの。建物の管理業務は滝川市役所がおこなっているものの、敷地の内外に舞い散っていく落ち葉のそ

うじは、大きな課題です。

フォーラムの運営委員たちが廃材を活用して組み立てた2基の落ち葉枡は、間口、奥行きとも約2メートル40センチ、高さ約90センチ。センター裏庭の一角に、地面にジカ置きしています。

センターの前庭や周囲の道路などで掃き集めた落ち葉のほか、近くの市立第3小学校など市内の小中学校で集められた落ち葉も運び込むと、二つの枡は早くも満杯に。

12月には、発酵の助けになればと、



運営委員がこれまた無償で農家さんから譲り受けてきた米ぬか約40キロを混ぜ込むなどしました。

さて、いつになったら腐葉土になるのか。いまから楽しみです。

森のかがく活動センター内の樹木一覧 (数字は本数)

サワラ1、アカエゾマツ1、ハイマツ2、モンタナマツ11、イチイ2、クロエゾマツ1、トウヒ28、ヒノキ1、ニオイヒバ8、トドマツ2、イチヨウ3、ヤマツツジ3、サラサドウダンツツジ3、エゾムラサキツツジ3、レンゲツツジ13、シャクナゲ3、ムラサキヤシオ3、ハナヒリキ1、ナナカマド5、ホザキシモツケ1、スウェーデンナナカマド1、エゾヤマザクラ3、コデマリ1、ヤエザクラ1、ハウチワカエデ2、イタヤカエデ4、ヤマモミジ1、ハシドイ1、ムラサキツリバナ1、カツラ1、トチノキ1、ミズキ1、シナノキ1、アカナラ1、ウツギ1、メギ7、シラカバ10

がんばってや



豆知識

ビオトープ【biotope】(ドイツ語で生物bioと場所topeを示す造語)都市の中に動物・植物・人間が共存できる生息空間を造成または復元すること。公園の造成・河川の整備の計画などに取り入れられている。『ハイブリッド新辞林』より)

エコアップ宣言 みんなでエコアッ! 武田忠義

イラストレーション・藤原どい

連載第4回 家庭でエコアップ(1)

今回からはエコアップの具体的事例を紹介して行きます。最初は、庭にいろいろな生き物呼び込む工夫から。

ビオトープ池を作ろう

いろんな動植物が住んでいる広い庭は、それだけで立派なビオトープですが、狭い庭だっていろいろなエコアップが楽しめます。ベランダでもできる、「ビオトープ池」作りを紹介しましょう。

もちろん土を掘って大きな池を作っても良いのですが、簡単なのはホームセンター等で売っているプラスチック製の池を使うことです。底に土と砂利を敷いて水を入れます。プラスチック製の衣装ケースや使わなくなった風呂桶でも構いません。コンクリートを練るときに使う「タフ船」はいろいろな大きさがあって大変便利です。ビオトープ池は土に埋めても、ベランダ等にそのまま置いても構いません。

ビオトープ池はそのままにしておいても、何年かするといろいろな生き物が住み着き、立派なビオトープになっ

てきます。それはそれで自然の仕組みを観察するためには面白いのですが、長い時間がかかるので、もっとエコアップのための工夫を試みましょう。

池の岸辺の半分くらいは、土を盛ったり土嚢(土を詰めた麻袋)を重ねたりして、岸辺が少しずつ浅くなっていくよう工夫します。プラスチック製の池を土に埋める場合は、プラスチックの周りの土を少し掘って水を溜めて、浅瀬を作ると良いでしょう。浅瀬はカエルや昆虫が水と陸地を行き来するのに使いますし、浅瀬を場所を好む植物が生え、小さな生き物が大きな生き物から身を隠す場所になります。このように、水中と陸地の二つの異なった環境が少しずつ移り変わっていく場所を、「エコトーン」(移行帯)と呼びます。エコトーンは、幅が大きく、また変化が複雑であるほど、多様な生き物

が暮らすことが出来ます。水辺に限らず、エコトーンをいかに沢山、複雑にするかがエコアップの秘訣の一つです。タフ船を利用した四角い形のビオトープ池ならば、土に埋めることが出来ない場所でも、水を入れたタフ船と土をいれたタフ船をくっつけることで、エコトーンを作り出すことが出来ます。

なお、浅瀬は野鳥が水を飲んだり水浴びをするにも良いので、止まり木になる枝を差しても良いでしょう。



水鉢を利用したビオトープ たくさん並べると良い

生き物を増やそう

次に植物について考えましょう。自然に種が飛んで来るのを待っても良いのですが、植えるのならそこの水辺に生えているヨシやガマが手軽ですし、ノハナショウブやヒツジグサなど花も楽しめる植物も良いでしょう。植物は水中の生き物の隠れ場所になり、トンボなどの昆虫が羽化したり卵を産むのに使います。日陰を作り、水の温度を調整する役目も果たします。

植物は池の底に植えても構いませんが、一度植木鉢に植えてから沈めると、配置の変更や植え替えが容易です



し、植物が増えすぎるもの防げます。岸辺を作るときに使う土を入れた麻袋に、ヨシの根を入れておくのも良いでしょう。

植物を植えたら次に、池や沼からバケツ一杯分の水をくんでみます。そのとき草の生え際から水をくむか、プランクトンネット(あるいは出来るだけ目の細かい網)ですくった中身をバケツの中に入れます。

そうするとそこには様々なプランクトンや小さな昆虫がいて、そのような水を池に入れると一気に生き物が豊かになり、食べるものと食べられるものの関係が生じます。やがてトンボやアメンボなどもやってきて、バランスがとれた、自然に近い生態系が生まれま

す。池を作ってから、どれくらいたったらどんな生き物が住み着くか、観察して記録をつけていくと楽しいでしょう。

なお、最初から欲張って生き物を沢山入れたり、大きな魚を入れてはいけません。生き物同士のバランスが上手く行かなくなります。魚に餌をあげることが必要になったら、それは家の中の水槽と同じです。大事なのは、自然の生態系を池の中に作ることです。

また、池の水を足す場合には、出来れば雨水を貯めておいて使いましょう。水道水には消毒薬が入っていて小さな生き物に有害な場合があります。ただだ・ただよし／たきかわ環境フォーラム運営委員

「エコアップ」のオキテ

1. 残された自然を守る
2. 人工的環境を改善して自然を豊かにする
3. 自然をつなげ、広い範囲で自然環境の豊かさを向上させる

えこあっぷ! リポート2



挑戦してみよう! バードテーブル

たきかわ環境フォーラム主催の講習会「窓をあけたらキミがいる—ミニサンクチュアリを作ろう」が2003年10月11日、森のかがく活動センター（滝川市空知町2丁目）で開かれ、約20人がバードテーブル作りに挑戦しました。講師を務めたフォーラム事務局長の越後弘さん（日本野鳥の会滝川支部長）に、作り方を伝授してもらいました。（文・写真／平田剛士）

用意するもの
 厚さ20ミリの板（廃材でもよい）
 50ミリ角・長さ1.8メートルの角材、
 クギ、木ネジ、屋外用塗料など

1 部品を切りそろえる

イラストの寸法を参考に部品を切りそろえよう。床板Aと天井Eは、真ん中にジグソーで51ミリ角の四角い穴をあける。

2 床を作る

床板Aの4辺に枠板BとCをクギで打ち付ける。床に水がたまらないよう、四隅は隙間を空けておく。

3 壁を作る

2で組み立てた側板Bに、壁板Dを木ネジで取り付け付ける。

4 天井を取り付ける

天井板Eを、前後の壁板Dにクギで固定する。床板Aの穴と、天井Eの穴がずれないように注意。

5 屋根を取り付ける

屋根板Fを壁板Dに乗せてを木ネジで固定する。前後のひさしの長さをそろえること。

6 支え棒を差し込む

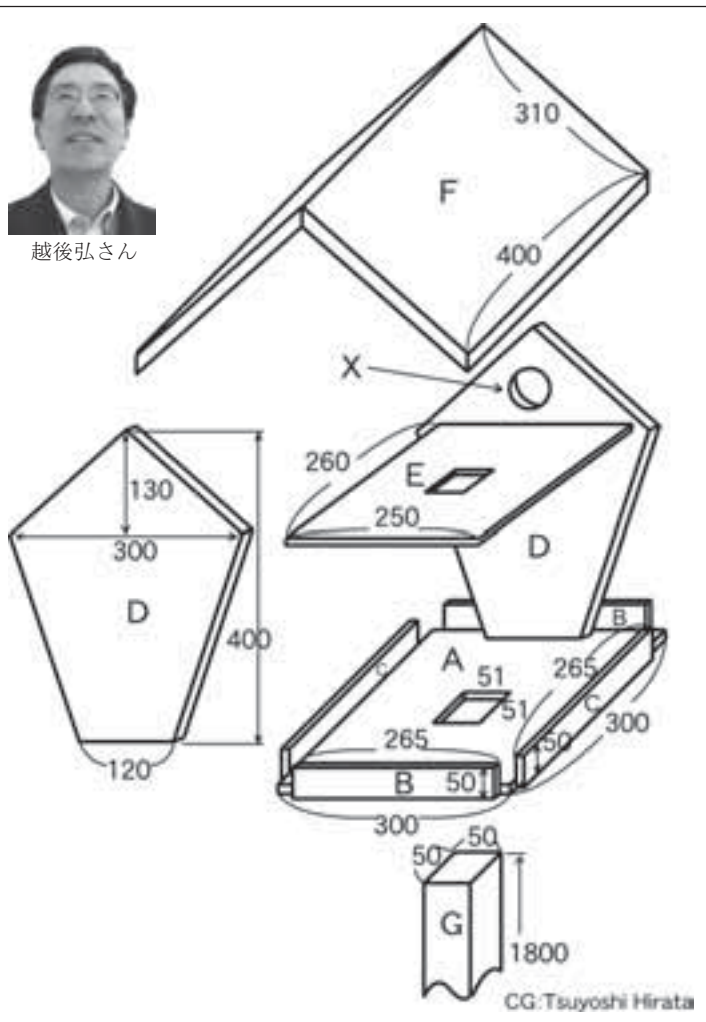
組み立てたバードテーブルの床板Aの穴から、支え棒Gを差し込み、天井Eの穴まで突き通す。

7 とっておきのオマケ

Xの位置に直径28～30ミリの丸い穴を開けておくと、天井裏を巣箱としても利用できる。



越後弘さん



えこあっぷ! リポート3

レファレンスって何ですか?

環境レファレンス・ワークショップ第1回

2003年11月29日午後、森のかがく活動センター2階のレファレンス室（仮称）で、「環境レファレンス・ワークショップ」が開かれました。滝川市立図書館の三宅和美さんの講義を聴いた後、約15人の参加者がセンターのレファレンスサービスのありかたについて意見を交わしました。（平田剛士）

三宅和美さん

レファレンスとは「参考図書で調べる」といった意味ですが、何を調べたらいいか、一定の手順があります。この手順に従って、それでも分からないときは、司書に相談して下さい。目当ての資料がたとえその図書館になくても、道立図書館とか、ほかの館も探し

て、届けてもらうこともできます。どんどん聞いて欲しいと思っています。これからこのセンターでレファレンス相談を始められるわけですが、滝川市立図書館では「貸し出し文庫」といって、100冊まで1カ月間、蔵書をお貸しす

る制度などもあります。ぜひ利用してもらえればと思います。（談）

次回のお知らせは8ページに。

疑問に思ったことを調べる。
 それがレファレンス
 三宅和美さん

豆知識
 ウカラ、ヒガラ、ヤマガラ、カワラヒワ、シメ、リンゴ（レンジャク類、ヒヨドリ）、脂身（カラ類、キツツキ類）
 青米（スズメ、ヒヨドリ）、残りご飯を洗ってぬめりを取ると良い（スズメ）、ヒマワリの種（シジュ

2004年5月1日 正式開館

滝川市 森のかがく活動センターは来年5月1日(土曜日)にオープンします。記念講演やミニコンサート、パネル展など、盛りだくさんなお祝い行事を企画中です(近日公表)。楽しみにしててください！



環境レファレンス・ワークショップ第2回
「環境教育」ってどんな教育？
どなたでも無料でご参加いただけます



とき 2004年1月17日
ところ 滝川市美術自然史館
主催 たきかわ環境フォーラム／滝川市教育委員会
お問い合わせ 電話 0125-23-1234 (内1754、文化振興課)

たきかわ環境フォーラム主催事業計画

2004年度えこあっぷ講座などのご案内 (都合により変更される場合があります)

5月1日	センター開館記念講演会 講師 小川巖さん(エコ・ネットワーク代表)
	開館記念ミニコンサート 出演 渡部昭彦さん(フォーラム委員)ほか
5月	パネルディスカッション 「街路樹問題を考えるパート2 子育てカラスとどう折り合うか」
6月	探鳥会 案内 越後弘さん(フォーラム事務局長、日本野鳥の会滝川支部長)
	ワークショップ「自然のしらべかた」 講師 武田忠義さん(フォーラム委員)
7月	ワークショップ「丸太小屋を建てよう」
8月	ピクニックコンサート 出演 渡部昭彦さん(フォーラム委員)ほか
9月	パネルディスカッション 「街路樹問題を考えるパート3 落ち葉とのおつきあい」
10月	ワークショップ「移入種問題を考える」
11月	ワークショップ 「バードカービングをつくろう」 講師 北谷孝範さん(センター職員)

このほかにも通年事業や各種勉強会、会合を開く計画です。どうぞお気軽にご参加下さい。

滝川市 森のかがく活動センター情報誌

えこあっぷ！ 第4号 2004年1月15日発行

発行 滝川市 森のかがく活動センター

編集 たきかわ環境フォーラム・えこあっぷ！編集委員会

平田剛士／深町亜紀／北谷孝範

郵便番号 073-0034 北海道滝川市空知町2丁目6の3

森のかがく活動センター内 電話 0125-23-1234 (内線1754)

電子メール bunka@city.takikawa.hokkaido.jp

次号は2月
発行を予定
乞うご期待